

2019 年度「秋の例会」の開催報告

広島大学マスターズ広島では、会員間の交流と親睦を深めるために、毎年、例会を開催することになっています。2019 年度秋の例会では、海田町の旧千葉家住宅の見学および西国街道史跡巡りを実施しました。

当日は、朝からの曇り空が昼頃には晴れて、散策日和となりました。紅葉には少し早かったのですが、旧千葉家住宅の見学と海田宿の史跡巡りを楽しみました。当日の行程は次の通りです。

日時：2019 年 11 月 11 日（月）

14 時 10 分 JR 海田市駅北口集合（参加者は 11 名）

旧千葉家住宅へ移動、見学（約 1 時間 30 分）

15 時 40 分 西国街道史跡巡り（徒歩 50 分程度）

三宅家→明顕寺→脇本陣跡→恵比寿神社→お茶屋跡→熊野神社と巡って

海田町役場から JR 海田市駅に帰還

17 時 20 分 懇親会（ホテルグランビア地下の居酒屋「三代目網元さかな屋道場」）

19 時 30 分 解散

旧千葉家住宅では、海田市ガイドの会ボランティアの方による案内と説明をいただいた。千葉家は、屋号を「神保屋」と言い、酒造業を営んでいた。家伝によると、中世前期に房総で勢力を誇った千葉氏一族を先祖とする武士であり、安芸の国へは永正年間（1504～21 年）に移り、初めは大内氏に、後に小早川氏や毛利氏に仕えた。しかし、毛利氏の移封に伴って武士を辞め、天正年間（1573～92 年）に海田へ来住したそう。江戸時代に西国街道が整備されると、海田市はその宿駅の一つとして発展した。千葉家は代々広島藩の「天下送り役（広島藩の書状や荷物を扱うこと）」といった、宿駅業務を務めた。その職務にまつわる数々の資料が伝わっている。



（旧千葉家住宅）



（主屋・座敷の床の間）

西国街道に面して建つ旧千葉家住宅は、海田宿でお茶屋（本陣）や脇本陣に準ずる施設として使われ、主屋・角屋・座敷棟および泉庭により構成されている。その中でも安永三年（1774）建築の座敷棟は、同時期に建てられた附属建物や泉庭と共に、建築当初の統一感ある接客空間の面影をよく残しており、平成 3 年には書院が広島県重要文化財に、泉庭が広島県名勝に指定された。座敷棟では、不老不死や子孫繁栄の願いが込められた動物の意匠が、欄間や座敷飾りに施されている。また、浴室には床脇に付書院があ

り、厠は畳敷きで刀掛けを備えていたのが興味深い。

(海田町パンフレット「旧千葉家住宅」より改編)



(座敷からの眺め)



(泉庭)



(動物の意匠による欄間など、龍、雁、兎)

星と月を象った千葉氏の家紋「月星紋」が、主屋の壁や軒丸瓦や調度品などに印されていた。江戸時代後期に「北辰一刀流」を開いた千葉周作も同じ「月星紋」だそうだ。千葉家は酒造業の他にも、綿花やぶどうの栽培やカキの養殖なども営んでいた。千葉家に伝わる民俗資料は、敷地に隣接して建設中の海田町の資料館に展示されるそうだ。



(千葉家の「月星紋」)

旧千葉家住宅を見学した後、海田の往時を偲ばせる西国街道を散策した。大農家だった三宅家の母屋は寛政元年（1789年）建築だそうで、土蔵など往時の面影を残しているそうだ。明顕寺では、銅製の梵鐘を眺めたが、戦時中の金属供出を免れたのだろうかとか、青銅製の梵鐘と較べて音色が異なるのだろうかなど話題になった。次の脇本陣跡は、現在、海田公民館となっており、史跡標識の説明版があるだけで往時を偲ぶ物はなかった。お茶屋跡（本陣跡）も標識があるだけで往時を偲ぶ物は何もなかった。熊野神社は、街道から石段を登った高台にあって、往時は境内から瀬野川や広島湾が眺められたのではないと思われる。社殿や軒丸瓦には浅野家の家紋「丸に違い鷹の羽」が施されており、浅野家の庇護と信仰を集めていたらしい。拝殿には三十六歌仙からカーブ優勝祈願まで様々の絵馬が飾られていた。拝殿の背後には神楽の舞台もあった。熊野神社の石段を下りて、向かいの海田町役場で休憩した。掲示されている海田町の地図を見ながら、広島市との地理関係が話題になった。



(熊野神社にて)



今回の例会では、海田の宿駅としての機能を旧千葉家と街道沿いの旧跡を通して垣間見ることができた。広島市という都市の直近にあって、海田が江戸時代の面影を残していることに少なからず驚かされた。また、旧家が何百年も継続して地域の役割を担ってきたことも感じ取れた。

往時と現代では、社会・経済の規模と範囲は格段に異なるが、経済がミクロからマクロの規模に発展する過程では、多くの苦悩と工夫があったと推測される。また、地域の社会構造と文化においても同様であったであろう。現代から近未来への複雑さを増す変革は、私達の想像を超えるものだろう。歴史を語る旧跡の保存が望まれる。

史跡巡りを終えて、懇親会では、第2回ミニ懇話会や10周年記念事業の計画など会の活動について話題になった。また、実家の片付けや墓終いなど年齢相応の切実な悩みが異口同音に聞かれた。公私に亘る話題で親睦を深めることができた。



(懇親会、居酒屋「三代目網元さかな屋道場」にて)

(報告者：圓山 裕)